

古くから「旅」は成長機会や学びの宝庫といわれますが、インターネットで世界中どこにでもアクセスできる現代において、旅がもつ価値とは何でしょう。高校における旅といえば修学旅行やフィールドワークが身近ですが、本特集では、自分が今いる場所から離れることを「旅」と捉え、旅を通じた自己理解や自己発見の可能性を探りました。

行き先や目的は関係ない。ひとりだつて、みんなとだつていい。飛行機、自転車、徒歩、海外でも通学路でも、自分が今いる場所から一歩離れるだけで、景色が変わり、思わぬ自分の内側に気づくとしたら。それは旅先や道中とは限らず、自宅に帰ってきてからかもしれないし、高校を卒業したもつと何年後かのふとした瞬間かもしれません。

点と点がつながるように、いつの日か自分でも知らなかった「私」の一部分に気づく。今号ではそんな「自分への旅」をお楽しみください。

特集

旅と学び

— 旅を通じて「私」を知る —



Q

旅がきっかけで、新たな自分に気づいたことはありますか？

北海道にフェリーで行き、大自然の中をドライブした。それまでは自然に興味がなかったが、急に山登りが好きになったり、植物に興味をもつようになった。大自然が心の枠を取り払ったような気がする旅でした(山梨県・公立高校・校長・50代)

中学～高校時代は、放課後に帰宅するとすぐに自転車をこぎ出して、平日は地元と隣町の書店めぐり、土日祝日はさらに遠方まで足を延ばした。途中の街並みの変化を見るのも楽しみだったし、書店の書架に並ぶ本を見て、店ごとの経営方針や客層の違いを感じ取るのが楽しかった。一見同じように見える街並みの違い、書店のディスプレイの違いの意味を探求していく中で、「研究職」への適性を発見したように思う(結果的には「教員」になるわけだが)(群馬県・公立高校・進路指導担当・60代以上)

家族3人で温泉旅館に。散歩していると道路沿いにタバコの自動販売機が。「珍しい」と思い、部屋に戻って報告すると、娘曰く「タバコの自販機けっこう街中に残ってるよ」。職場と我が家の往復、時々コンビニの毎日。タバコってまだまだ有るんだ。自分の無知に気づく旅の空でした(熊本県・私立高校・進路指導担当・50代)

山登りをして、自分の体力のなさを痛感したが、登り終えて見た景色のすばらしさに感動し、美しいものを美しいと思える心が自分の中にあったと気づきました(静岡県・公立高校・副校長/教頭・50代)

イギリスでは、まったく日本の情報が入らず、新鮮でした。とにかく足で歩くときよい。肌で、風、匂い、湿度を感じることで、自分の内側からも何か出てくる(宮城県・公立校・副校長/教頭・40代)

大学2年の夏、高校時代の同級生と4人で2週間、北海道を旅しました。しかし一緒に旅をして1週間もたつとお互いの嫌なところが鼻につき始めました。別々の大学に進み、生活や考え方、夢も異なるようになった私たちは、些細なことでぶつかって険悪な雰囲気。自己顕示欲や猜疑心、嫉妬心、わがまま、そういったものが自分の中で大きくなっていきました。今思うと自己肯定感のゆらぎや自信のなさの裏返しだったのかもしれませんが。最後は大いに盛り上がり、4人は何事もなかったように元の学生生活に戻っていきました(大阪府・公立高校・その他・60代以上)

キャリアガイダンス編集協力委員へのアンケートより抜粋